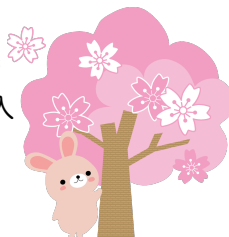




第16号にあたって

暖冬により桜の開花が早まった四月を迎え、新入学生・新社会人して第一歩を踏み出す人も多いと思います。しかし、例年と異なり、新型コロナウイルス感染症がパンデミック（世界的大流行）となり、私たちの日常生活に大きな影響を与えています。私たちにできる感染予防対策、特に正しい手洗いの励行と多人数で交わることをできる限り避けることをお願いします。感染が早く終息に向かうことを願っています。

今回は、病気の知識として、「慢性硬膜下血腫^{まんせいこうまく か けっしゅ}」と「急性アルコール中毒」を掲載しました。慢性硬膜下血腫は、認知症と勘違いすることもあるので注意しましょう。また、新入生や社員の歓迎会などでは、イッキ飲みによる死亡がおきないように十分注意しましょう。



病気の知識

慢性硬膜下血腫

“頭の軽い打撲後、忘れた頃に発症！”

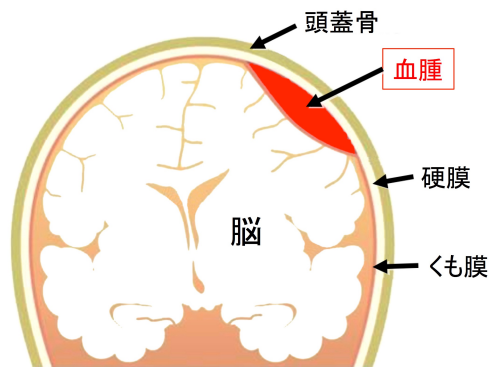
慢性硬膜下血腫^{まんせいこうまく か けっしゅ}とは、軽度で忘れてしまう程度に頭を打った後、およそ1～2ヶ月かけて、脳と硬膜（頭蓋骨の内側で脳を包んでいる膜）の隙間にじわじわと血液がたまっていく病気です（右図）。長期間放置すると、意識障害や呼吸停止に至ることもあります。タイミングが遅れることなく診断され治療が行われれば完治します。

【症状と原因】

- ・血腫が脳を圧迫した結果、頭痛、吐き気、おう吐、物忘れ、半身に力が入らない、歩行障害、言葉が出ないなど多彩な症状が徐々にみられます。
- ・高齢者で物忘れや意欲の低下などの症状が徐々に出現した場合などでは、認知症と間違えられ治療開始が遅れることが少なくないので注意が必要です。「急に認知症が進んだ」場合は、この病気も考え医師に相談する必要があります。
- ・軽微な頭部外傷、例えばドアに頭をぶついたり、酔っ払っている時の頭部打撲など忘れてしまいがちなことが原因になります。
- ・乳幼児では、成人とは異なり、きげんの悪さ、けいれん発作、おう吐が主な症状です。また、頭部外傷以外に、体を強く揺さぶられるだけでも発生します。
- ・乳幼児（児童）虐待でも、しばしばみられます。
- ・60歳以上の高齢男性に多くみられますが、女性や比較的若い方でもみられます。
- ・お酒を多く飲む人、高血圧、血液をサラサラにする薬（抗凝固薬など）の服用でおきやすくなります。

【診断と治療】

- ・診断は、神経学的な診察の上、頭部CTやMRI検査で可能です。
- ・頭部外傷直後は、まだ血腫が存在せず異常を発見できないので、受傷直後に異常がなくても、1～2ヶ月後に上記の症状がみられたら、すぐに受診してください。1～2ヶ月がポイントです。
- ・血腫が小さければ自然吸収を期待できますが、大きい場合は手術が必要です。
- ・通常は局所麻酔下で、頭蓋骨に小さな穴を開け、細い管で血液を取り除くだけの簡単な手術ですみます。早期の適切な治療が行われれば、症状は劇的に改善し、後遺症もなく治ります。
- ・しかし、治療開始が遅れると、後遺症として片マヒや認知症状などが残り、最悪の場合には死に至ることもあります。





・徐々に、上記の症状がみられたら早めに脳神経外科や神経内科を受診してください。



・頭の打撲後に頭痛などの症状がみられ心配な方は、日曜・祭日の午前9時～午後6時（受付は5時30分まで）であれば、新潟市急患診療センターの脳外科診療が可能です。



・急激な神経症状（意識がない、片マヒ、言葉がでない、けいれんなど）がみられた場合は、救急車を呼んでください。

急性アルコール中毒 “イッキ飲み” 強要での死亡は傷害致死罪！

- 急性アルコール中毒とは、大量の飲酒によって意識障害、運動失調や激しいおう吐を伴うような状態を急性アルコール中毒と言います。
- 若年者・女性・高齢者などでリスクが高まり、とくに大学生や新社会人では“イッキ飲み”として飲酒させられ、死亡に至るケースが毎年発生しています。
- 血中アルコール濃度が0.4%以上では死に至る危険性が高く、意識障害、血圧低下、激しいおう吐、尿失禁・便失禁などの症状が出てきます。
- おう吐物がのどに詰まり窒息死することがあります。
- ゆっくり飲酒している時には、危険な状態になる前に飲酒を中止できますが、“イッキ飲み”では、中毒症状が出る前に大量に飲酒をしてしまっており重症化します。
- 飲酒経験の少ない若者は適量の飲酒がわからないため、コンパや新人歓迎会などでの“イッキ飲み”が原因で救急搬送される人が多いので絶対やってはいけません。
- 個人差はありますが、日本酒で7合、ワイン（750mL）では2本、ビール中瓶では5本で急性アルコール中毒の危険性が高くなります。適量は日本酒では1合、ビール500mL程度です。



【酔いの四段階】

- 右図のような段階があり、場合により死に至ります。また、おう吐物で窒息する危険性もあります。%数値は血中のアルコール濃度です。

【症 状】

- 意識がなくなる、おう吐、言葉が出ない、頭が痛い、どうき、息苦しさ

ほろ酔い	0.05%	おしゃべりになる、陽気にはしゃぐ、脈が早くなる、判断力が鈍るなど
酩酊	0.1%	足がふらつく、何でも同じことを言う、吐き気、記憶が途切れるなど
泥酔	0.2%	立てなくなる、言葉が支離滅裂、意識がもうろう、激しいおう吐など
昏睡	0.3%	ゆずっても呼んでも反応しない
死亡	0.4%	死の危険がある。



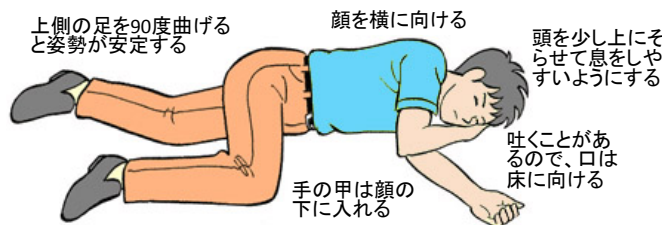
- “イッキ飲み”は命を奪うこともある人権侵害（アルコール・ハラスメント）なので絶対にしない、させないで下さい。場合により傷害致死罪が適用されます。
- アルコールの代謝能力は人それぞれなので自分の適量を知り、その日の体調にも注意して下さい。

- 空腹のときは、飲酒しないで下さい。
- 酩酊状態の場合は、一人にしないで慎重に様子を見て下さい。
- 衣服はゆるめ、低体温にならないよう保温して下さい。
- おう吐物で窒息しないよう横向きにして下さい。（右下図）



- 激しいおう吐の後、ゆずっても呼びかけても反応しない時、大いびきをかいて痛み刺激に反応しない時は、ためらわずに救急車を呼んで下さい。

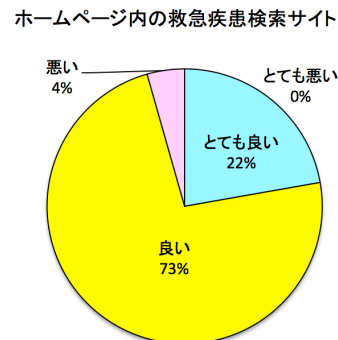
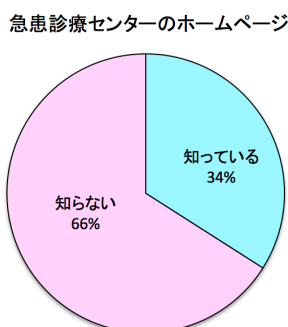
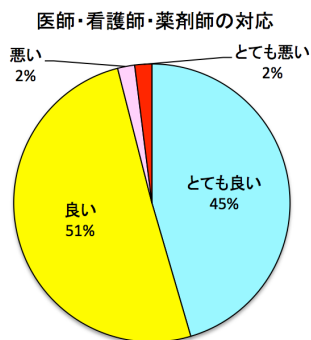
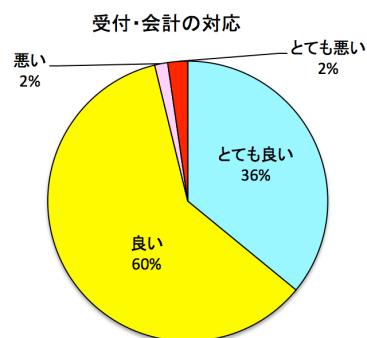
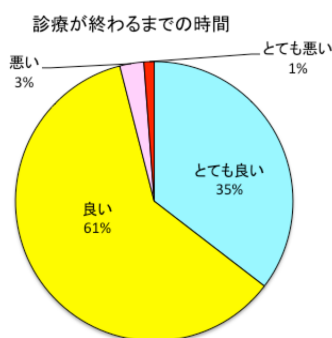
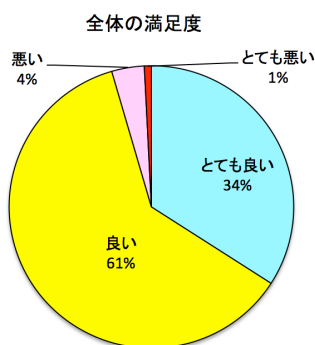
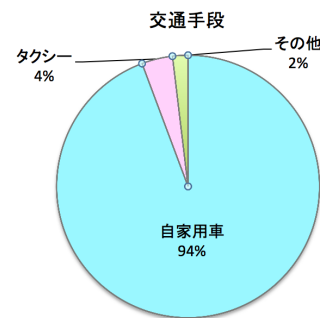
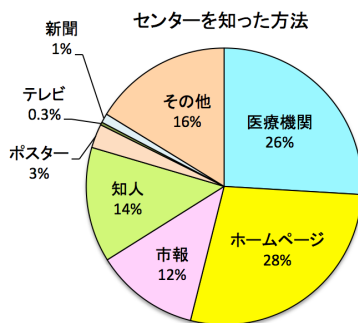
- 泥酔状態で放置するとおう吐物がのどにつまり窒息したり、車にひかれたり、眠り込んで低体温症で死亡するなどの危険性があります。
- 脳障害で植物人間になることもあります。



急患診療センター 窓口アンケート結果について

当センターでは、毎年受診された患者さんに窓口アンケートを実施しており、昨年11月6日～20日に実施した結果の一部を紹介します（総受診者数1,422名、回答者数267名、回答率18.8%）。

受診のかたわらアンケートにご協力いただいた方に感謝し、今後の急患診療の質の向上に役立たせていただきます。



Q & A （質問に答えて）

Q：新型コロナウイルス感染症のこともあり、急患診療センターでの感染症対策について教えてください

A：新潟市急患診療センターには、インフルエンザやノロウイルスなど多くの感染症や疑いの患者さんが受診されます。そのため、感染症対策については、院内感染対策指針と感染対策マニュアルに基づいて日常的に行っています。標準感染予防策（適切な手洗い、手袋、マスク、ガウンなど）、医療器具の適切な消毒、屋内の清掃、職員の健康管理とワクチン接種などです。感染症が疑われる患者さんについては、空気清浄機付きの感染症診察室や屋外の診察室で対応しています。

今回の新型コロナウイルス感染症の流行にあたり、マスク着用と手指消毒の徹底、就業前の体調確認、センター内の清掃・消毒の強化を行い、患者さんへの対応も保健所の指導にそって行っています。

しかし、**感染症の疑いのある患者さん（発熱や発疹など）が、電話連絡なしにセンター内に入られますと他人への感染のおそれがある**ので、**受診前に必ず電話をしていただく**ようお願いします。

また、**新型コロナウイルス感染症が疑われる方は、まず、「帰国者・接触者相談センター（新潟市民は、025-212-8194）」に相談してください。**

診療科にかかわらず、当分の間、受診時にはマスク着用と手指のアルコール消毒（手指消毒剤は玄関や各診察室前に用意してあります）をお願いします。下記の情報も参考にしてください。

新型コロナウイルス感染症・市民向け感染予防ハンドブック



新潟市
情報



新潟県
情報



厚労省
情報



診療時間



★土曜日の在宅当番医

【整形外科】

午後3時～午後10時
 （当番医は新潟日報土曜日朝刊とホームページ「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます）

【産婦人科】

午後2時～午後6時
 （当番医はホームページ「新潟市産婦人科医会」に掲載されます）

当番医は、当センターにもお問い合わせできます。

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 （受付時間：午後7時～翌日午前6時30分）
	土曜	午後2時～翌日午前9時 （受付時間：午後2時～翌日午前9時）
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 （受付時間：午前9時～翌日午前6時30分）
整形外科	平日	午後7時～午後10時 （受付時間：午後7時～午後9時30分）
	土曜（★）	午後10時～翌日午前9時 （受付時間：午後10時～翌日午前9時）
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 （受付時間：午前9時～午後9時30分）
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 （受付時間：午後3時～午後9時30分）
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません（★産婦人科のみ在宅当番医あり）
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 （受付時間：午前9時～午後5時30分）



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
 市民に信頼される
 救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

新型コロナウイルス感染症の流行で、安心して自由な日常生活を送り仕事ができることが、どんなに幸せかを知りました。人類は、過去にも多くの感染症を抑えてきた歴史があり、デマに惑わされず、正しい情報に基づいた、感染予防と行動が私たちに今問われています。

新潟市急患診療センター
ホームページ



新潟市医師会
救急疾患検索サイト



小児救急ハンドブック



発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914

新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号

TEL 025-246-1199